

理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

PISA 2022の結果

▲理科教育における、日常生活や社会との関連を重視する活動、自然の事物・現象を科学的に探究する活動の充実、及びそれらを行う上で必要となる観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間の充実を図る。

研究員による実践の成果と課題

- 「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力がバランスよく育成されている。
- ▲学びをより深めるための教材・教具の工夫については力を入れて取り組んでいく必要がある。

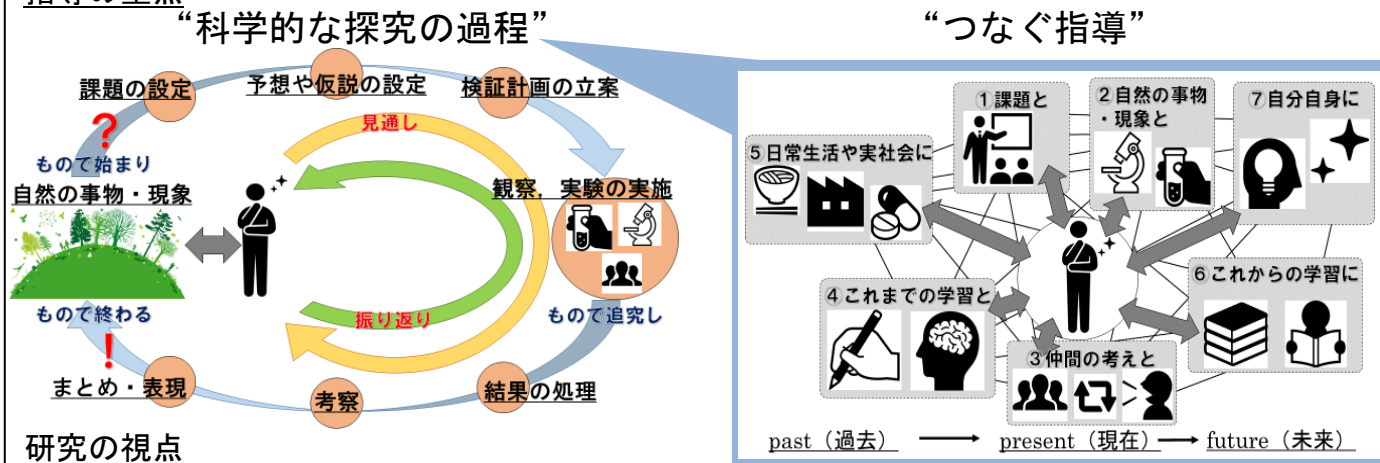
子どもの目線に立つ2022

○令和4年度の調査では、理科の勉強が「好き」「大切」「将来役に立つ」と回答する生徒の割合が全国平均を上回っている。
 →平成30年度の前回調査よりを上回っていることから、岐阜県の研究の方向に一定の成果が見られる。
 ▲習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明することや多面的に考えることで、より妥当な考えに改善することについて課題が見られる。

研究主題

「理科の勉強が好き・楽しい」と実感できる理科指導 ～ “科学的な探究の過程” と “つなぐ指導” を通して～

指導の重点



研究の視点

- <教育課程>
 - ・育成する資質・能力を捉え、学習内容の系統性・発展性や科学的な探究の過程を明らかにした指導計画の作成
- <観察、実験>
 - ・課題に正対した考察をするために必要となる確かな事実が得られる教材・教具の工夫
- <学習・評価>
 - ・生徒が、自ら学習課題を設定することができる導入の指導
 - ・結果を図やグラフ・表などに整理して考察することができる指導
 - ・日常生活や実社会への適用を意図し、理科の有用性を実感できる終末の指導
 - ・自分自身の学びを自覚することができる評価の工夫
- <環境教育>
 - ・地域の人的・物的資源を活用などして、自然環境の保全に寄与する態度を育てる指導